

マキの害虫 ケブカトラカミキリにご注意下さい！

ケブカトラカミキリとは？

体長約1cm、日本在来のカミキリムシの一種で、**イヌマキとナギの木のみ**食害します。樹皮下の形成層の部分を食べるため、木は水や養分を吸い上げられなくなるため、**一部または全体が枯死してしまいます。**

以前から四国・九州に生息し、被害が問題となっていました。平成20年に県内で初めて匝瑳市で被害が確認されました。



被害の状況

現在、県内では匝瑳市、横芝光町、山武市、芝山町、多古町、旭市、香取市等で被害が確認されています。被害木は、毎年それまで被害のあった地域以外でも確認されており、さらに多くの被害木があると推測されます。

生態

ケブカトラカミキリは1年に1回発生します。木の中で越冬した成虫が4月～6月にかけて4mmほどの穴(脱出孔)を空けて脱出し、すぐに交尾を始め、樹皮下に産卵します。

卵は10日前後でふ化し、幼虫が10月頃まで樹皮下を食害します。その後、木の中で成虫となり、そのまま越冬します(図1)。

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
生態	材内	卵～ ふ化期		幼虫 食害期 幼虫がマキの木の形成層を食害				蛹(さなぎ)～羽化・成虫期 11月までに材内で羽化、成虫のまま樹皮内で越冬						
	材外	成虫脱出 産卵期 約40個産卵												
防除		薬剤散布適期 幹周りに散布			被害木の伐採適期									

(図1) ケブカトラカミキリ生態カレンダー

被害の特徴

①葉の色つやが悪く、黄色くなり、やがて枯死する

目に見える被害はここから始まり、最終的には枯死します。木全体が枯れることが多いですが、特定の枝だけ枯れることもあります(写真2)。

②幹がリング状に盛り上がる

木が傷を治そうとして、このように盛り上がることがあります(写真3)。

③脱出孔が開く

①、②の被害は他の病害虫でも同じような症状が出ることがありますが、この**脱出孔(写真4)**を確認できれば、**ケブカトラカミキリの被害と断定できます**。樹皮をはぐと、食害痕(写真5)が確認できます。



(写真2)被害の事例
左:健全樹、中:一昨年被害、
右:当年被害

(写真3)幹のリング状隆起 (写真4)脱出孔(直径約4mm) (写真5)樹皮をめくったところ

似たような被害

①キクイムシ類

木全体又は枝が枯れます。この虫も樹皮下を食害し、脱出します。被害はよく似ていますが、脱出孔の大きさは約1mmと、ケブカトラカミキリのものと比べ、明らかに小さいので容易に判断できます(写真6)。



(写真6)キクイムシの被害
(写真右の方に小さな
脱出孔が見える)

②葉枯れ性・枝枯れ性の病害

カビなどの病害によっても葉枯れ・枝枯れすることがあります。

防除

大切なことは、**木を健全に育てること**です。**強すぎる剪定は木を傷めます**。樹勢を維持するため、適正な施肥も有効です。傷んでいる木には被害が出やすいので、注意してください。

加えて、以下の対策が有効です。

①3月までに被害木を伐採・処分する(伐採だけでなく、その後の処分まで必ず行ってください)。

②成虫が幹から外に出てくる4月中旬～6月上旬に樹幹に農薬を散布する。

(トレボンMCまたはトレボンEWの2,000倍液の散布)。

その他、被害の判断や防除方法の詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ

海匠地域：千葉県海匠農業事務所 改良普及課 ☎ 0479-62-0334

山武地域：千葉県山武農業事務所 改良普及課 ☎ 0475-54-0226

香取地域：千葉県香取農業事務所 改良普及課 ☎ 0478-52-9195